

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
こんな問題を聞いたことがあるだろうか。

① あるクレタ島人が、「すべてのクレタ島人は嘘つきである」と言った。さて彼の言うことは「本当」だろうか、それとも「嘘」だろうか。
これはギリシャのエピメニデスという人物の言葉によるパラドクス（逆説、背理）で、※論理的には、「ウソだ」という答えも「本当だ」という答えも成り立たないとされている。なぜだろうか。

まず、このクレタ島人は「嘘つき」であると答えるとする。すると彼の言葉は嘘なので、「すべてのクレタ島人は嘘つきでない」が正しいことになるが、ところが彼の言葉は「嘘」なのだから事実と反する。逆に、もしこのクレタ島人が嘘つきでないとすると、彼の「すべてのクレタ島人は嘘つきである」は真実ということになるが、するとやはり彼は嘘つきでないということと②する。いったい、これはどう考えればいいのか。

（中略）

この問題の「うーむ、どう考えればいいのか」と人の頭を悩ませる中心点、つまり、この問題が難問（アポリア）になっている根本の理由は、われわれが、誰かの言葉は「ほんとう」か「うそ」かのどちらかだと思いついて、という点にある。ラッセルという哲学者も。テンケイ的にこの考え方にはまりこんで、これを解けない難問と考えてしまったのだ。

（中略）

仮に読者である君がクレタ島に行き、一人のクレタ島の住人に「クレタ島人はみんな嘘つきだよ」と言われたとする。これは一応事実に関することだとと言える。しかしそのとき君は、彼の言うことは「ほんとう」か「うそ」かのどちらかだ、と考えるだろうか。決して、そんなことはない。

君はどう考えるか。「この人は何を言いたいのだろうか、この島には観光客目当てにごまかしたり、ちよろまかしたりする商人が多いので、親切で警告してくれているのだろうか。それとも、なにかむしゃくしゃすることもあって、自分の島の人間の悪口でもいいたいのだろうか。」他の可能性もあるが、まずそんな風に考えるだろう。

それだけではない。仮に君がきわめて、真面目な性格で、彼が「ほんとう」を言っているとそのまま受け取ったとして、しかしそのとき君は、彼が「クレタ島人はみんな嘘つきである」と言う以上、クレタ島人はあらゆる機会につねに必ず嘘をつく、と考えるだろうか。さらに、そうである以上彼がいま言っていることもまた嘘だということになる、と考えるだろうか。もしそう考えるとしたら、君は、何かの具合で頭のネジが外れてしまっているのだ。

③、現実の言語では、あるクレタ島人が「すべてのクレタ島人は嘘つきである」と言ったとして、実際にここにいわれているようなアポリアやパラドクスを受けとって困るような人は一人もいないのだ。この問いが、パラドクスやアポリアと感じられるとしたら、実際多くの人がそう感じるわけだが、それは④実際の言語の使用では決して起こらないあることが、起こるかのよう錯覚するからである。つまりこれは、三次元（立体的）のものを二次元（平面）で表現することで作り出されるエッシャーの騙し絵のようなもので、問題は、この錯覚をシテキすることによって解明されるのだ。

この問題は全体として言語や論理の「本質」ということにかかわっている。だからていねいに説明するにはかなり多くのことを言わなくてはならないが、できるだけポイントをしぼって試みよう。

肝心なのは、実際にこういう場面にぶつかったとしてもわれわれは何も問題を感じないが、なぜそれをこうして文章にして示すと、見たようなパラドクスが生じるのか、という点だ。③「ここで文章として分析される言語と、実際われわれが使っている言語では、言語の機能が違っている。どこが違うているのか。核心点は一つである。」

実際の言語では、われわれはまず、しゃべっている人がその言葉でいったい何を言おうとしているのか、をつかもうとして聞いている。それが実際の言語の構造上の本質である。ところが、問題にされているような文章として示された言語では、われわれはその文章が「一般的に表示している意味」しかつかむことができない。ここに錯覚の根がある。

英語のパラドクスで、「what's the difference?」というのがある。これは「違いは何だ?」という意味と、「何の違いもない」という二つの意味をもっていて、ただ書かれているだけだとその意味は「A」だとされる。これも同じで、実際の場面でだけかがこの言葉を使った場合、たいていはどちらの意味で言ったか「B」。聞き手は、彼が何を言おうとしたのかをめぐり、それは「スイソクでほとんどの場合分かるからだ」ところがここに「what's the difference?」という言葉があります、という具合にこれを出すと、ここでは発話者がいない。それで「彼がどんなつもりで言ったのか」というねらいは消え、さきの二通りの一般的意味だけが残る。そのために意味は「C」になるのである。あるクレタ島人が「すべてのクレタ島人は嘘つきである」と言った、というのと同じ事情である。

（竹田青嗣『哲学ってなんだ——自分と社会を知る——』より）

注 ※ 論理：議論・思考・推理などを進めて行く筋道。思考の方式・形式。論証の仕方。

問一 傍線部 a、d のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 傍線部 ①「あるクレタ島人が、『全てのクレタ島人は嘘つきである』と言った」とありますが、読者が実際に言われた時にはどのように考えるだろうと筆者は述べていますか。次のア、エの中から適切なものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア このクレタ島人の言葉は嘘なので、「すべてのクレタ島人は嘘つきでない」が正しいが、彼の言葉は「嘘」だから、事実と反しているな。

イ この島には観光客目当てにごまかしたり、ちよろまかしたりする商人が多いので、親切心で警告してくれているのだろうか。

ウ なにかむしゃくしゃすることでもあって、自分の島の人間の悪口でもいいのだろうか。

エ クレタ島人はあらゆる機会につねに必ず嘘をつき、そうである以上、彼がいま言っていることもまた嘘なんだな。

問三 空欄②には、「つじつまの合わないこと。」という意味を持つ故事成語が入ります。その言葉を、漢字二字で答えなさい。

問四 空欄③に共通して入る語句として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア それとも
- イ しかし
- ウ さて
- エ 要するに

問五 傍線部④「実際の言語の使用では決して起こらないあることが、起こるかのように錯覚する」とありますが、この「錯覚」が起こる大もとの原因を、筆者はどのように説明していますか。「実際の言語」「文章として示された言語」という言葉を必ず用いて、百字以内で説明しなさい。

問六 空欄A～Cに入る語として最も適切な組み合わせを次のア～クの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 〔 A 決定不可能 B 理解できる C 決定可能 〕
- イ 〔 A 決定不可能 B 理解できない C 決定不可能 〕
- ウ 〔 A 決定可能 B 理解できない C 決定可能 〕
- エ 〔 A 決定可能 B 理解できる C 決定不可能 〕
- オ 〔 A 決定不可能 B 理解できる C 決定不可能 〕
- カ 〔 A 決定不可能 B 理解できない C 決定可能 〕
- キ 〔 A 決定可能 B 理解できない C 決定不可能 〕
- ク 〔 A 決定可能 B 理解できる C 決定可能 〕

問七 この文章に興味を持ったある生徒が、『哲学ってなんだ——自分と社会を知る——』を読み、哲学のアポリアやパラドクスについて、筆者の考えをノートに整理した。空欄Xに入る言葉を、本文中から十字で抜き出しなさい。

ノート

■哲学が生み出すアポリアやパラドクスについて考える時の注意点

① 哲学は、基本的に言葉(概念)を論理的に組み合わせることだけで、世界を説明する。「概念」はいろんな性質を含み、言葉を用いて表現されるため、一つの言葉に複数の意味が生じることがある。これをうまく利用し、おかしなパラドクスや難問を作り出すことができる。

② ①の通り、「概念」の奇妙な性格に引っかかって出来たアポリアやパラドクスが、圧倒的に多い。

③ ②にすぎないかどうかをよく考え、本当に重要な哲学的問題であるかを見極める必要がある。

■右記の注意点をふまえて、「クレタ島人」のパラドクスについて考える

- ・ ②にすぎない。
- ・ この難問を解くためには、X について考えなければならない。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

先輩たちが引退してから、私たち女子バスケット部は勝てなくなっていた。一気に人数が減ったことで、チーム全体の^Aシキ^Bそのものがなんとなく下がっていた。そんな中で、部長を任されていたあたしの心は毎日 a とすり減っていた。部長があたしでいいのか、チームが勝てないのは自分のせいなんじゃないか。そんな相談を、寺田にはしていた。

ある日、練習が終わると、亜弓が話があると行って部のメンバーを集めた。

「生徒会って……入ってからもちゃんと部活でられるの？」

倉橋がそう言うのと、なぜか後輩であるよっちゃんが力強くうなずいた。

亜弓はレギュラーで、インサイドでもアウトサイドでもうまくプレーができる、大切な選手。

「いっぱいいた先輩が引退しちゃって、私たちの代になって」

倉橋は落ち着いている。

「チームの中で亜弓の存在がどれだけ大きいか、わかってる？」

ダウンを終えた体は、あたりを暗く染めていく雨の空気にさらされてすっかり冷え切ってしまった。あたしはよく雨女だって言われる。一度寺田に、お前が悲しい気持ちになると雨が降るんだって言われたことがある。 b と、細い雨が体育館を包み込むように濡らしていた。

みんなで、円になって立っていた。女子バスケット部には生徒会に入ってはいけなくて決まりはないけれど、やっぱり練習量が多い部だからか、今まで生徒会とかけもちをする部員はいなかった。

「私は」

何か言おうとするよっちゃんを「セイシシするよっちゃん」に、亜弓が一步前に出た。亜弓はいつも背筋をピンと伸ばして、堂々としている。

「生徒会に立候補します」

亜弓の声には、反対を受け付けない強さがあった。

「これは相談ではなくて、報告のつもりで話しています。私は生徒会の活動がしたいんです。それを止める権利は、部にはないはずですよ。あたしは、目に力が入るのを感じた。はっきりと自分の意見を言い切る亜弓は、あたしの苦勞を何もわかっていない。

「ダメだよ」

自分の声ってこんなにも響くんだ。どこか冷静な気持ちで、あたしはそう思った。

「ダメだよ、亜弓。いま立候補することには、前期の生徒会でしょ。文化祭があるじゃん。絶対忙しいよ、部活出られなくなるよ」男バスがこっちを見ているのがわかった。寺田の首から、くたくたのタオルが下がっているのが見えた。

「いまでも、倉橋とあたし合わせて、女バスは七人しかいないんだよ。ギリギリ。しかも、亜弓はうまい、いつもスタメンじゃん」

Yさん「でも、バレエ部のあなたの学年は全員で八人いたでしょ？この本文の『後藤』とはちょっと違うと思うなあ。『後藤』と同じ学年は全員で（①）人だもの。」

X君「確かに違うかもしれないね。人数が多いだけで安心できたことはたくさんあったなあ。それにしても、もし『亜弓』がクラブを辞めたら、『亜弓』の学年が（②）人になっちゃうもんな…。それは少ないよね。」

Yさん「でも、この文章にある、情景描写にも注目したいわね。（③）はきつと『後藤』の心の中を表現していると思うなあ。」

Z先生「そうだね。不安だったり悲しさだったり、『後藤』の気持ちをうまく表現しているね。」

X君「それにしても『寺田』がこの先の内容でどう関わっているのが気になるな。女子バスケット部の一人として、『後藤』を救ってほしいな。」

Yさん「私はちよつと『寺田』のことはわからないわね。バツシュのまままで駆け込んだ東棟で何が起こるのか、の方が気になるわ。」

Z先生「じゃあ、みんなと一緒に続きを読むことにしよう」

X・Y「はい、先生！」

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある時、二人の知音^{ちいん}うち連れられたつて行く道で、熊といふ獣に行き。あひて、一人は木に登り、いま一人は熊と闘うたが、精力尽くれば、地に倒れ、①空死をしたり。かの獣の習性で、死人には害をなさぬものなり。されどもその獣、生死の安否を試みやうと思つたか、耳の辺、口の方をかいでも、死んだごとくに動かざりければ、そこを退いた。その時木に登つた者が降りて、その人に近づいて、「さて、ただいま※御辺に②かの獣がささやいたことは何事ぞ。」と尋ねれば、②こたへていふは、「かの獣の我に③教訓をなした。それは何ぞいふに、汝、以後御身のやうに大事に臨みて見放さんとする者と知音すなど。」

（『伊曾保物語』より）

注 ※御辺 … あなた、貴殿。

問一 二重傍線部 a・b の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改めなさい。

問二 波線部 I・II の動作主を次の A・E の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 木に登つた人 I 空死をした人 U 作者 E 熊という獣

問三 傍線部 ① 「空死をしたり」とありますが、それはどういうことですか。

問四 傍線部 ② 「かの獣がささやいたこと」とありますが、その内容部分を本文中から抜き出し、最初と最後のそれぞれ三字を答えなさい。

問五 この話から読み取れる教訓を次の A・U の中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 軽々しく人の言葉を信じてはいけない。 I 人は自分を省みず他人の過ちを非難する。
U 危機のときこそ本当の仲間がわかる。 E 悪事をはたらくと復讐される。
オ 自分よりも劣つた者を友としてはいけない。

【四】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

紀元前の中国まで遡り、暦法で番号を表すのに十種類の漢字が用いられていました。それを「十干（じっかん）」と呼びます。

十干の漢字は、「申・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」です。そして、十二支はあなたも知っている通り、子・丑・寅・卯・辰・巳・【①】・未・【②】・酉・戌・亥の十二種類です。

これらの「十干」と「十二支」を組み合わせた十干十二支（干支）は六十通りになります（資料1）。今の子どもたちは知らない人も多いかもしれませんが、実はこの「干支」は各年、各月、各日それぞれに割り当てられており、あなたも知っている様々なところでこの干支は使われています。例えば、十干の「甲」と十二支の「子」の組み合わせの年に建てられたのが【③】ですし、一九一一年の辛亥革命、六七二年の壬申の乱、一八六八年の戊辰戦争などもこの干支から名づけられています。今年（二〇二三年）の「干支」は【④】であることも含めて、あなたは知っていましたか？

西暦	和暦	干支
2009年	平成21年	己丑
2010年	平成22年	⑤庚寅
2011年	平成23年	辛卯
2012年	平成24年	壬辰
2013年	平成25年	癸巳
2014年	平成26年	甲午
2015年	平成27年	乙未
2016年	平成28年	丙申
2017年	平成29年	丁酉
2018年	平成30年	戊戌
2019年	令和元年	己亥
2020年	令和2年	庚子

問一 【①】 【②】 【③】 【④】 【⑤】 に当てはまる言葉を答えなさい。

問二 資料1にある傍線部⑤「庚寅」の干支が前回出てきたのは西暦何年ですか。漢数字で答えなさい。

【五】 次の各問いに答えなさい。

問一 ①～⑩の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 世界的なキボで考える。 ② 冷蔵庫にナマタマゴをしまう。 ③ すみやかにゼンシヨする。
- ④ 景品をカクトクした。 ⑤ アンミンのために、寢室を整える。 ⑥ ソウオン問題を解決する。
- ⑦ 図書館の本をヘンキヤクする。 ⑧ トウトツに話を切り出す。 ⑨ 強いカクゴで試合に挑む。
- ⑩ 町のボキン活動に協力する。

問二 次の四字熟語の最も適当な意味を後のア～クの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 悪戦苦闘 ② 有象無象 ③ 以心伝心 ④ 八方美人 ⑤ 花鳥風月
- ア 形のあるものないものすべて。 イ 口に出して言わなくても気持ちが通じること。
- ウ 像の存在ですべてが変わるといふこと。 エ 口に出して言っても気持ちが伝わらないこと。
- オ 自然の美しい景物・景色。または風流のこと。 カ 特定の人にだけ愛想がよいこと。
- キ 死にもぐるいで困難に立ち向かうこと。 ク だれにも愛想よくふるまうこと。